

活動報告

団体名	ウェザーハート災害福祉事務所
活動名	被災市町村の巡回支援とボランティア活動の技術支援を通じた被災者支援活動
活動期間	2020/08/04～2020/08/29
活動の成果	<p>1. 災害後、研修会の実施またはマニュアルの見直しなどが実施された支援対象者は主に、大蔵村、村山市、山形市、河北町、大江町の災害ボランティアセンター（社会福祉協議会、行政）。地元で発災したことから、今後の備えについて行政や社協の皆さんといった支援者と、一部住民の皆さんの関心、防災への意識が高まったように感じました。それが災害ボランティアセンターの重要性や災害への備え（マニュアルの見直し、研修会の実施）につながりました。</p> <p>2. 災害ボランティアセンター設置運営中のコロナ対策 ボランティアの募集範囲や活動内容に一部制限をかけたリ感染症の予防チラシを作成・配付するなど、予防面に関しては社会福祉協議会、災害ボランティアセンタースタッフ、ボランティアの皆さんも強い意識を持って取り組みました。万が一新型コロナの陽性確認がなされた場合のフローは確立されていなかったため、感染確認時のリスクマネジメントには課題があったと感じていますが、幸い本災害での災害ボランティアセンターにおいては感染者ゼロでした。</p> <p>3. 災害ボランティアセンターの運営に関するアドバイス 災害ボランティアセンターは開所もさることながら閉所の判断も難しいが、丁寧にニーズ調査を行いながら閉所に向けての取組を行うことが出来た。</p> <p>4. 山形県内の資機材ストックヤード設置にむけて この7月豪雨において「災害ボランティアセンター用の資機材ストックヤード」の必要性をお伝えした。その後、山形県庁・山形県社会福祉協議会・山形青年会議所の皆さんで相互協定を結び、山形県内に「災害ボランティアセンター用の資機材ストックヤード」を常設設置する運びとなった。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>ご支援頂き、大変ありがとうございました。7月豪雨災害で被災した山形県では、複数の自治体（7市町村）で災害ボランティアセンターが設置されました。またコロナ禍でボランティアを大々的に募集することができず、かつ活動内容も制限され、現場では手探りの状態が続きました。「災害が広域にわたり、加えてコロナ禍で活動が制限される」といった状況下においては、細やかな調整を行う「災害支援コーディネーター」を継続的に派遣する必要性がありました。おかげさまで「県域調整のコーディネーター」とコロナ予防や安全対策を主とした「現地調整のコーディネーター」を派遣することが出来ました。今回の災害を教訓とし、「山形県内の災害への備え」をより具体的に進めていきたいと考えています</p>

(活動のようす)

